

ビジネスからITまで  
シームレスにアジャイルする

「アジャイル・  
ビジネスアナリシス」

IIBA日本支部  
濱井 和夫

# 自己紹介

- NTTコムウェア（入社当時はNTT）で、プログラマ、汎用機OS開発、方式SE、業務SE,PMを経て、現在PMO担当。  
2015年、社内のアジャイル導入立ち上げ期に有志の協力者として参画し、Scrum Alliance認定プロダクトオーナーを取得。



- その一方、正しく作るだけでなく、正しくビジネス要求をシステムへつなげることの必要性を強く認識し、業務外活動としてIIBA® (International Institute of Business Analysis)日本支部の活動に参加し、2017年から教育担当理事としてビジネスアナリシス活動の普及に従事。



- その他、2015年から、ビジネス企画等をスピーディに実施する手法「匠メソッド」の有志の勉強会「匠塾」執行部メンバ。



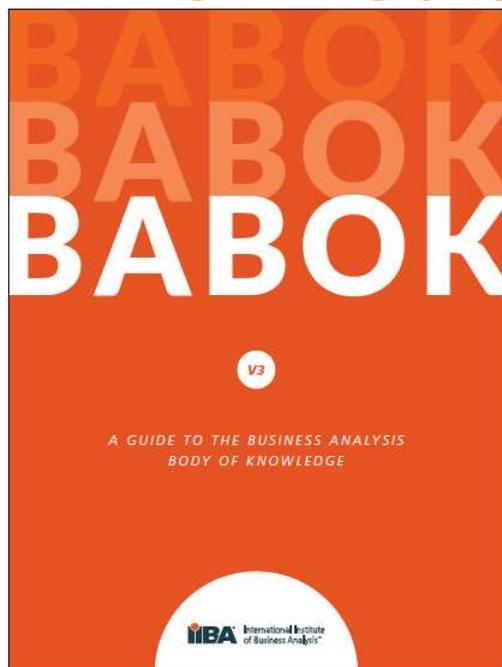
**IIBA: International Institute of Business Analysis**

© International Institute of Business Analysis

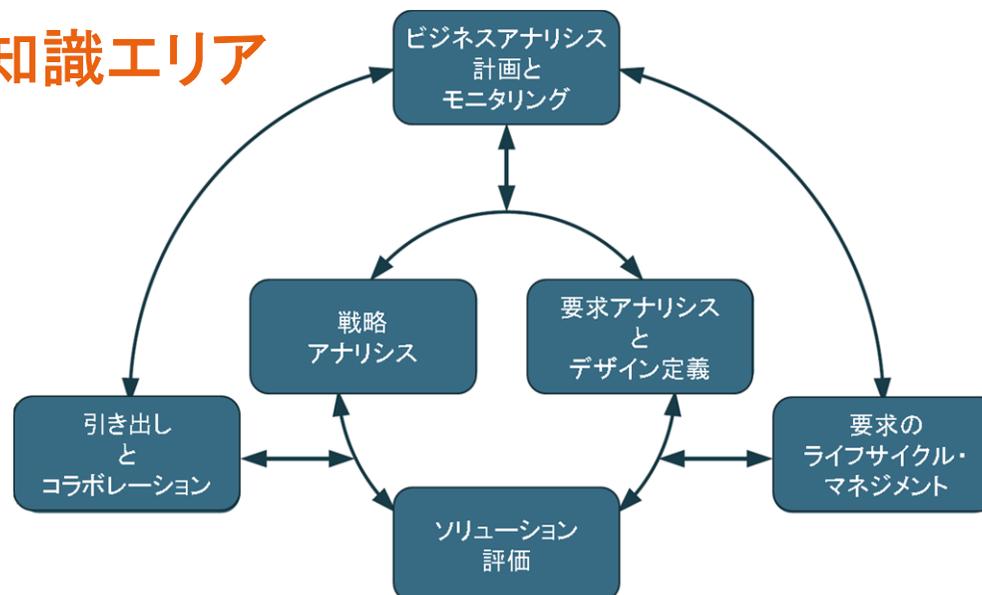
## IIBA® について

- ビジネス・アナリシスのための国際的な独立非営利団体 (NPO)  
ビジネスアナリシスの専門活動としてグローバル標準 BABOK® Guide 制定  
(Business Analysis Body of Knowledge)
- 2003年10月にカナダのトロントにて設立
- 会員数は世界で約30,000名。支部は約100名

## (BABOK® Guide) v3



### 知識エリア



IIBA: International Institute of Business Analysis

# BA (Business Analysis :) って、ご存知ですか？

The practice of enabling **change**

**チェンジ**を可能にするプラクティス

In an organizational **context**

**組織が置かれたコンテキスト**で

by defining **needs** and

**ニーズ**と

Recommending **solutions**

推奨**ソリューション**を定義することで

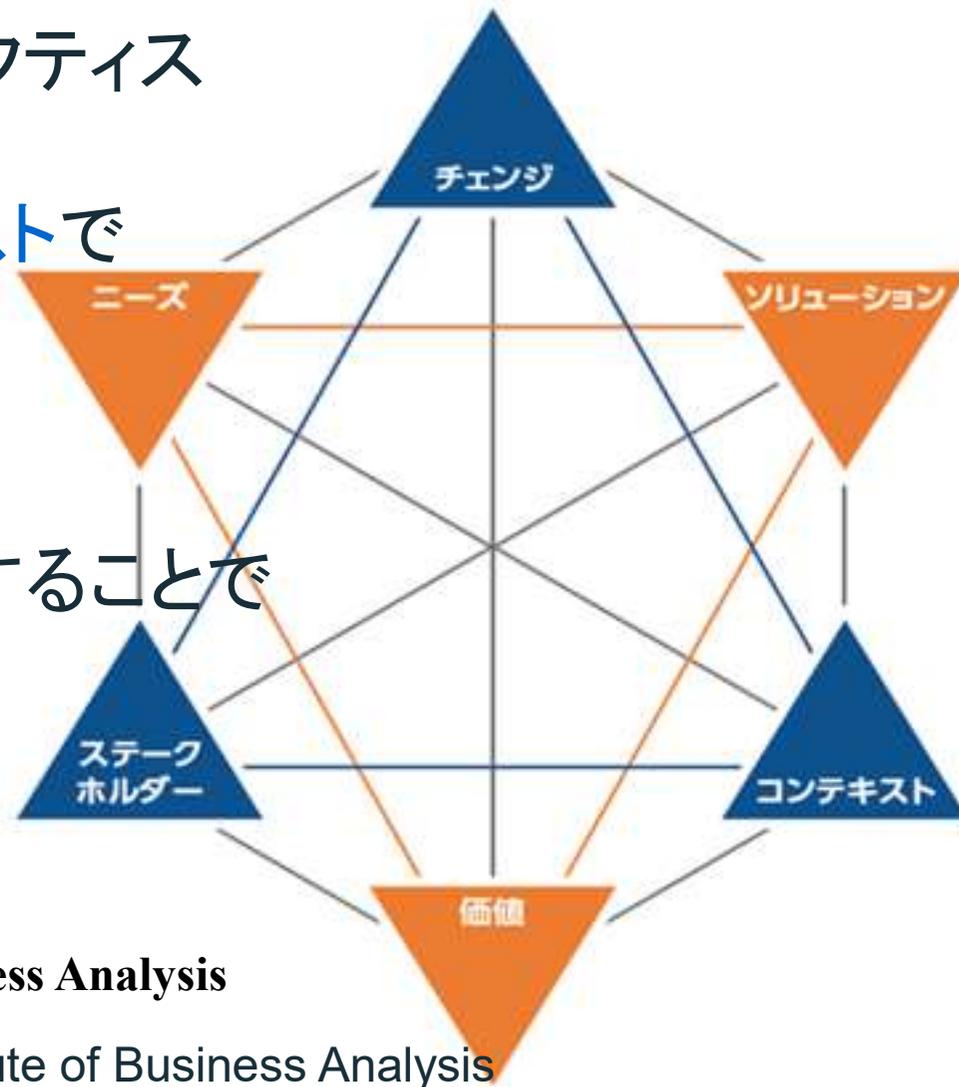
that deliver **value**

**価値**を提供する

to **stakeholders**

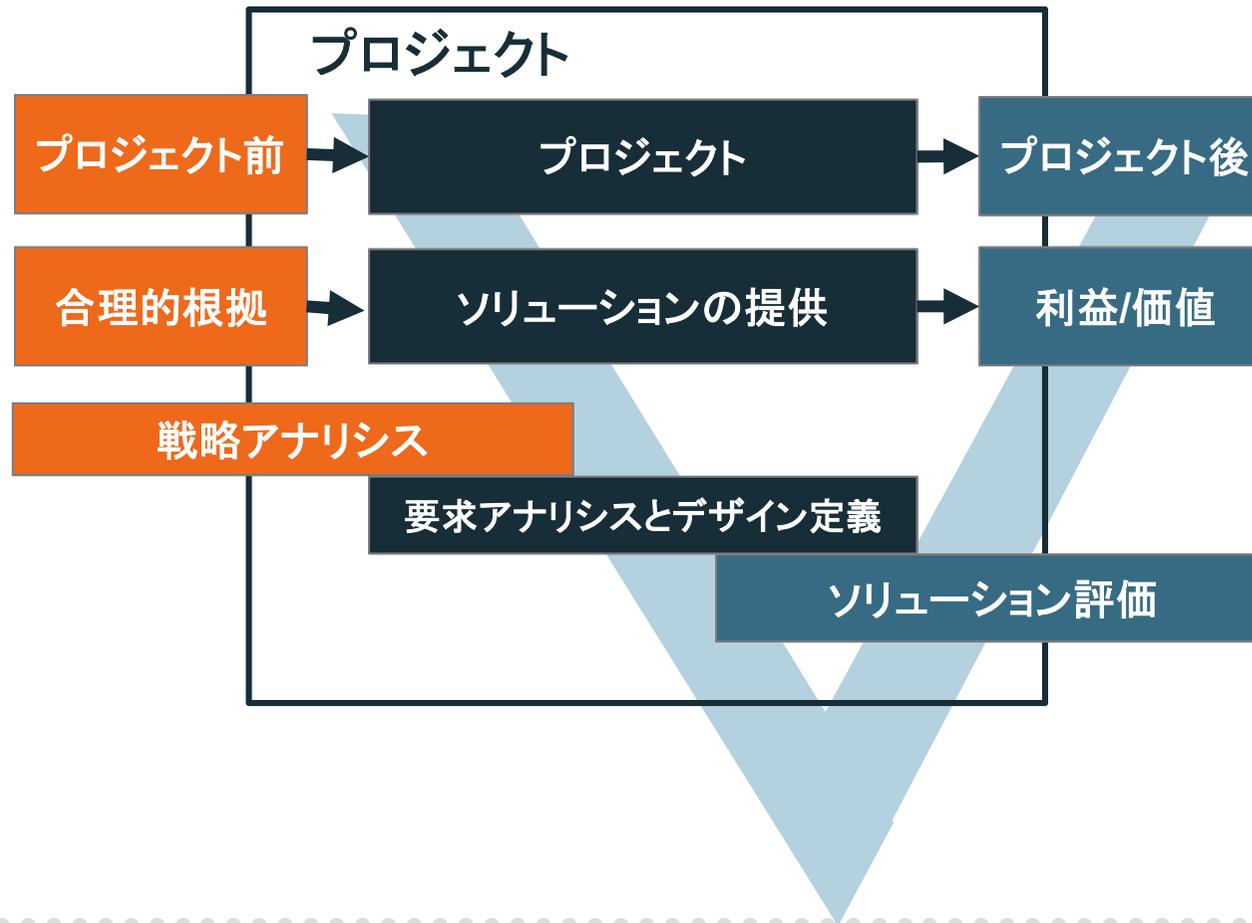
**ステークホルダー**に

IIBA: International Institute of Business Analysis



ビジネスアナリシスは、プロジェクトの境界を超えて、

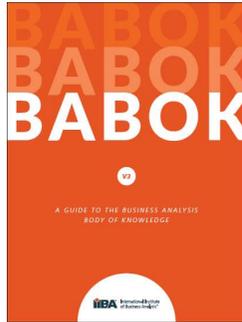
- ・そのソリューションが**何故 (WHY)** 必要なのか？の合理性を与え、
- ・価値を実現する**要求を定義 (WHAT)** し、**ソリューション案を推奨** し、
- ・提供されたソリューションが**実際に価値を実現しているか**を評価します。



Introduction and Key Concepts

# BABOKガイド アジャイル拡張とは

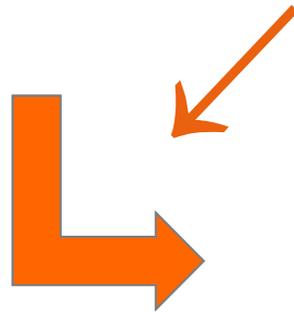
(BABOK® Guide) v3



## アジャイル・マインドセットを適用

- ・迅速かつ一貫して価値を提供する
- ・勇気を持って協力する
- ・学ぶために反復する
- ・ムダを省くためにシンプルにする
- ・コンテキストを考慮し、現実に対応
- ・フィードバックを反映し、プロダクトとプロセスの両方を適合
- ・最高品質のプロダクトを生み出す

(BABOK® Guide) v3  
Agile Extension V2



**iIBA** International Institute of Business Analysis™



日本語版は年内に出版予定

# BABOKガイド アジャイル拡張とは

アジャイル拡張において、アジャイルマニフェストは、「動くソフトウェア」を「動くソリューション」に、置き換えて考える。

1. 私たちは、ソリューション提供の実践あるいは実践を手助けをする活動を通じて、よりよい開発方法を見つけだそうとしている。
2. プロセスやツールよりも個人と対話を。
3. 包括的なドキュメントよりも動くソリューションを。
4. 契約交渉よりも顧客との協調を。
5. 計画に従うことよりも変化への対応を。

# BABOKガイド アジャイル拡張版とは

## アジャイル・ビジネスアナリシスの基本原則

- See the Whole (全体を見る)
- Think as a Customer (顧客として考える)
- Analyze to Determine What is Valuable  
(価値あるものは何かを決めるために分析する)
- Get Real Using Example (例を使って真実を得る)
- Understand What is Doable (実行可能なものは何かを理解する)
- Stimulate Collaboration and Continuous Improvement  
(コラボレーションと継続的改善を促進する)
- Avoid Waste (ムダを省く)

# ところで 今年のテーマ「アジャイルでつなぐビジネスとIT」

「ビジネス側」、「IT側（開発現場）」でどんな壁がある？

## 「ビジネス側」

- ・アジャイルが良さそうなことは分かってきた。
- ・しかし、経営としては**複数の領域に複数のライフサイクル**が違う商品も存在する。どうやって会社全体をアジャイル的に経営すればよいのか分からない。
- ・アジャイルといっても、経営方針や、事業計画は頻繁に変更するものではないのではないか？

## 「IT側（開発現場）」

- ・アジャイルやってて楽しい！
- ・ユーザーからのフィードバックや振り返りでプロダクトもプロセスもどんどん良くなる！
- ・チームがアジャイルで活動することをビジネス側もちゃんと認めて欲しい  
（上の人が変わったら止めるようなものじゃなく）
- ・POとビジネス側（経営）が同じ思いで動いているか、不安
- ・チームからのフィードバックや、環境の変化で、会社の方針も透明性を持って、アジャイル的に変われると良いのでは。。。

ところで

## 今年のテーマ「アジャイルでつなぐビジネスとIT」

「ビジネス側」、「IT側（開発現場）」でどんな壁がある？

「ビジネス側」

「IT側（開発現場）」

「ビジネス側」、「IT側」共に、アジャイルの効果を理解してきているが、より大きなビジネス価値の実現のためにどのような枠組みを考えたらいいのか模索が始まってきている状況では？

見ているスコープの範囲や、時間枠が異なる役割が存在することを認識した上で、協働する仕組みが必要。

# BABOKガイド アジャイル拡張版のポイント

## 3つのホライズン※でのアナリシス

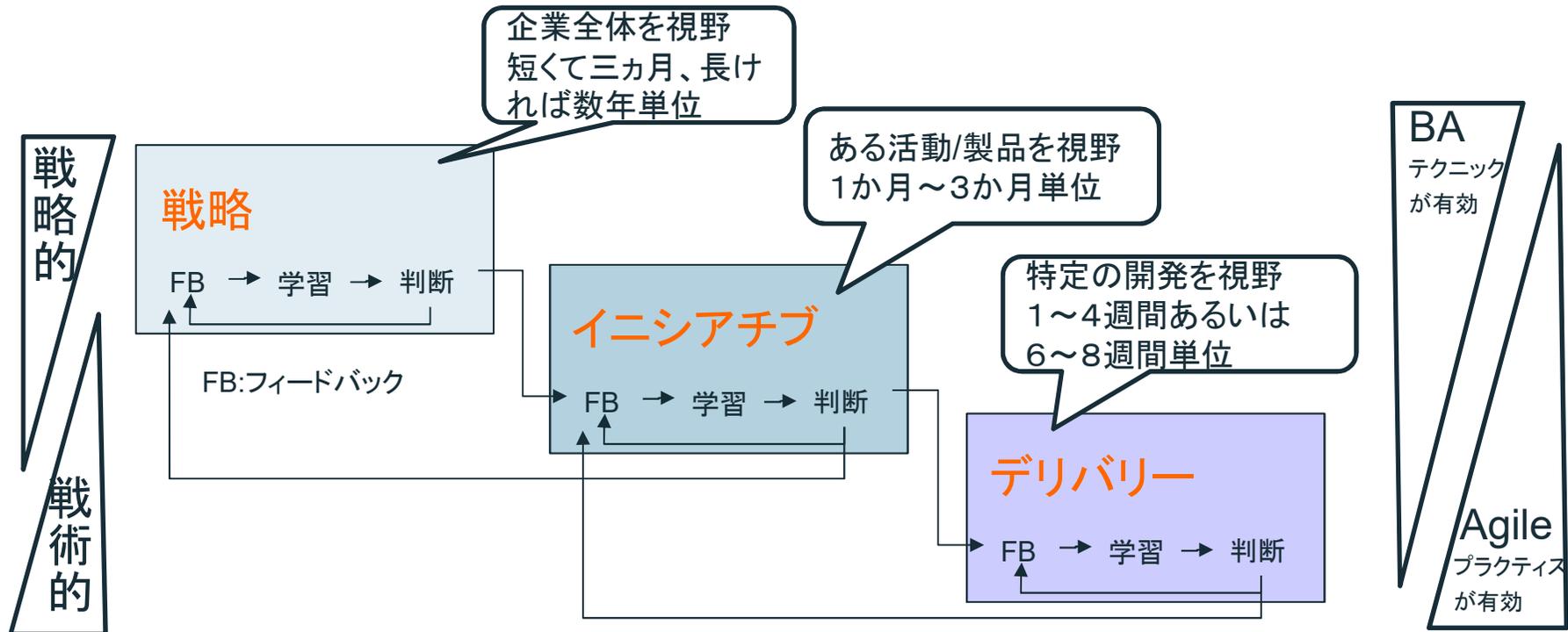
- ・企業の中には、戦略から製品出荷までさまざまな検討のレベルが存在し、スコープも異なれば、時間枠も異なるため、3つのホライズンを設定する。
- ・但し、それらのホライズンが独立、若しくは片方向に指示が伝達されるだけの構造ではなく、相互にフィードバックと学習が行われる。

※Horizon:ここでは、ある点から見える視野といった意味

# BABOKガイド アジャイル拡張版のポイント

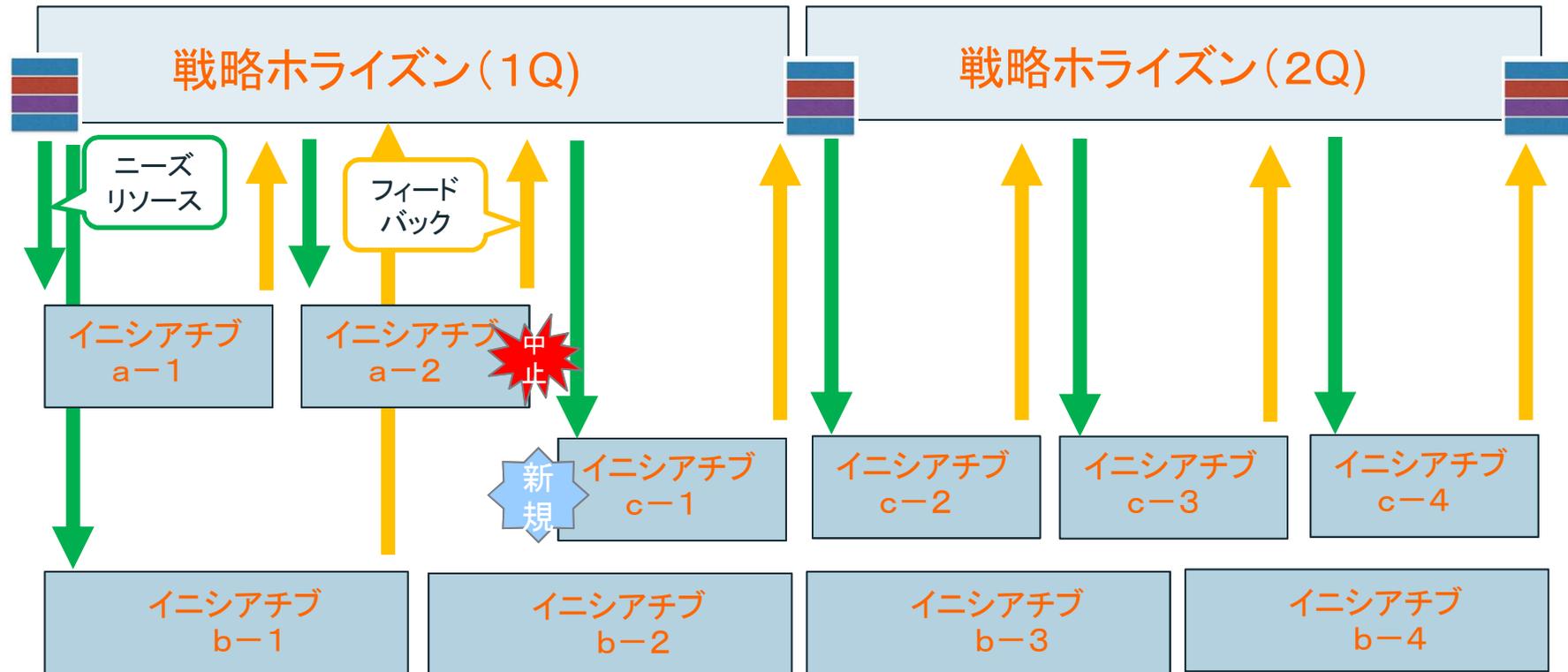
## 3つのホライズン\*でのアナリシス

\*Horizon:ここでは、ある点から見える視野といった意味



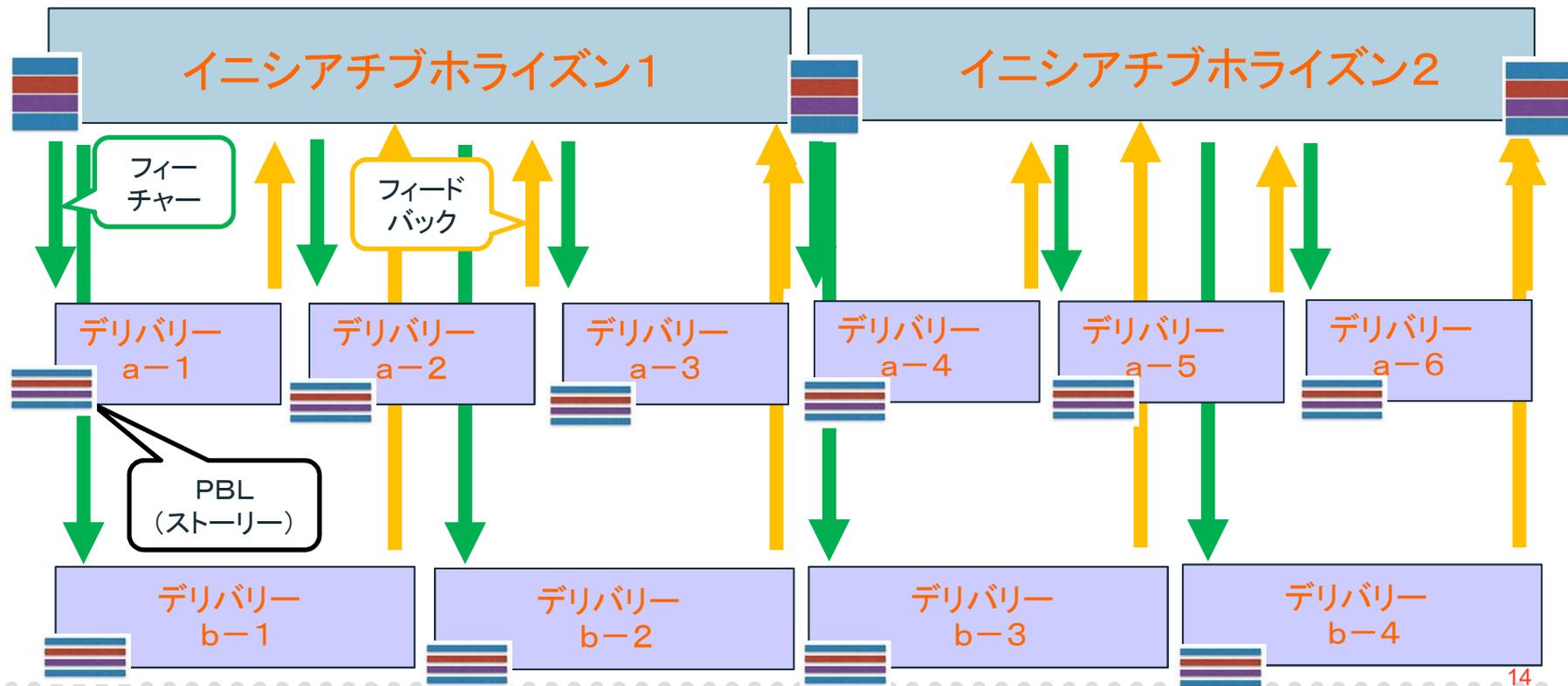
## もう少し詳しく(戦略ーイニシアチブ)

- ・それぞれのホライズンで、フィードバックと学習が繰り返される。
- ・戦略ホライズンでは、対応すべきニーズを特定して、そのニーズに対応するイニシアチブを創設する(対応すべきニーズと完了条件の提示、そしてリソースを与える)。
- ・顧客の期待の変化、外部環境(競合等)の変化、イニシアチブからのフィードバックにより、イニシアチブの変更や中止を判断する。
- ・イニシアチブのタイムフレームは、その特性によって変わっても良い。



## もう少し詳しく(イニシアチブー デリバリー)

- ・イニシアチブホライズンでは、ニーズを満たすソリューション選択肢を検討し、ソリューション決定を支援する。決定されたソリューションに対して必要となるフィーチャー、そしてその優先順位を明らかにする。
- ・ニーズの変化、デリバリーからのフィードバックにより、実装するフィーチャーの優先順位を変更する。



# 何が良くなるの？

## ● 経営の意思決定の迅速化とアジリティの確保

- ・戦略ホライズンでは、戦術以下の詳細な検討結果が出るのを待たず、**迅速にリズムよく戦略ベースの意思決定を合理的根拠をもって※行い、**具体的な活動を実施するために、イニシアチブに委託する。
- ・外部環境の変化と、イニシアチブからのフィードバックによる学習により定期的に計画見直しのリズムを作る。

## ● 透明性の確保（ビジネス側、IT側を通して）

- ・イニシアチブは、**共有された戦略、目的**に従って細かに承認を待つことなく活動を実施し、フィードバックを返す。
- ・イニシアチブで検討された**戦術に沿ったフィーチャーとその優先順位が共有され、**デリバリーが実装を行い、フィードバックを返す。

※ここが**ビジネスアナリシス**が活用されると良いところ。

「ビジネスアジリティ・マニフェスト変革の実現のために」も参考に

<https://busagilitymanifesto.org/10-translations/23-bam-japanese>



Good business analysis enables an organization to be agile, to respond well and rapidly to the changing environment, and to better meet customer needs.



[www.iiba-japan.org](http://www.iiba-japan.org)